

今回の結果からみられる自校の課題を取り上げ、「3つの見届ける」を徹底しましょう。

《自校の課題として取り上げたい問題》

平均正答率 県 (%) 自校 (%)

★課題となっていることの要因や背景

1 児童生徒の実態から

2 教師の指導から

☆指導上の改善点（見届けるの徹底を図るための場や方途）

算数・数学の授業では、

※課題となった問題にもう一度チャレンジさせ、学年の内容を指導しきりましょう。

平成 26 年度 岐阜県における児童生徒の学習状況調査 《算数・数学》

概要

小学校第 4 学年

県平均正答率 61.6%
 A 問題 69.8%
 B 問題 44.0%
 自校平均正答率 []%
 A 問題 []%
 B 問題 []%

＜おおむね身に付いている力＞

- ・(2位数) ÷ (1位数) の計算をすることができる。
- ・四則混合の計算をすることができる。
- ・1辺の長さが1 cm の正方形を使って図形の面積を求めることができる。

＜課題となる力＞

- ・1000 兆までの数のしくみを理解している。
- ・示された情報をもとに、条件に合う時刻を求めることができる。

小学校第 5 学年

県平均正答率 65.6%
 A 問題 70.1%
 B 問題 58.0%
 自校平均正答率 []%
 A 問題 []%
 B 問題 []%

＜おおむね身に付いている力＞

- ・(整数) × (小数) の計算をすることができる。
- ・分母のちがう分数のたし算の計算をすることができる。
- ・平行四辺形の面積の求め方を理解している。

＜課題となる力＞

- ・小数の乗法の意味を理解している。
- ・ひし形の面積の求め方を表した説明を、式に表すことができる。

中学校第 2 学年

県平均正答率 57.8%
 A 問題 67.6%
 B 問題 38.1%
 自校平均正答率 []%
 A 問題 []%
 B 問題 []%

＜おおむね身に付いている力＞

- ・正の数と負の数の加減の計算をすることができる。
- ・分配法則を使って、多項式に数をかける計算をすることができる。
- ・三角形の角についての性質を使って角度を求めることができる。

＜課題となる力＞

- ・数量の関係を不等式で表すことができる。
- ・具体的な事象を表したグラフから速さを求めることができる。

【平成 26 年度 全国学力・学習状況調査の設問と同一、類似問題（一部）の正答率】（算数・数学）

問題番号	平成 26 年度 岐阜県における児童生徒の学習状況調査			平成 26 年度 全国学力・学習状況調査			
	出題のねらい・意図	自校	県	問題番号	自校	県	全国
小 4 1 (2)	100－20×4（同一） 四則混合の計算をすることができる。	%	87.9%	A 1 (5)	%	75.4%	80.9%
小 5 1 (8)		%	84.8%				
中 2 1 (1)		%	93.0%				
小 4 1 (3)	2.74+1.6（類似） (小数)+(小数)の計算をすることができる。	%	80.7%	A 1 (3)	%	77.7%	83.8%
小 5 1 (7)		%	66.2%				
小 4 類似	3 (1)	%	77.9%	A 2 (1)	%	71.6%	71.9%
	7 (1)						
小 5 類似	6	%	42.7%	A 7	%	64.5%	69.4%
	9 (2)						
中 2 類似	4 (3)	%	72.5%	A 9	%	37.5%	35.8%
	7 (2)						

算数・数学 調査結果と指導の改善

自校の調査結果をチェック①

技能の習熟とともに、数量や図形等の意味の理解を図る指導を行っていますか。

調査結果 問題及び平均正答率

- ◆小学校第4学年
 - 1(2) 四則混合の計算をすることができる。 県 87.9% 自校 %
 - 1(3) (小数) + (小数) の計算をすることができる。 県 80.7% 自校 %
 - 2(2) 1000兆までの数のしくみを理解している。 県 40.7% 自校 %
- ◆小学校第5学年
 - 1(2) (小数) × (小数) の計算をすることができる。 県 79.3% 自校 %
 - 2 (小数) ÷ (小数) で被除数、除数、商及び余りの関係をとらえ処理できる。 商 県 72.1% 自校 %
余り 県 50.8% 自校 %
 - 3 小数の乗法の意味を理解している。 県 34.7% 自校 %
- ◆中学校第2学年
 - 1(4) 分配法則を使って、多項式に数をかける計算をすることができる。 県 80.0% 自校 %
 - 2(2) 数量の関係を不等式で表すことができる。 県 67.7% 自校 %

指導改善のポイント①

○ 基礎的・基本的な知識・技能の習熟を図るとともに、数学的に表現したり、数学的に表現された事柄を読み取ったりする活動を位置付けましょう。

【小学校】「小数(小数のたし算とひき算)」では、小数の仕組みをもとに整数と同じ原理、手順で計算できることを説明させる。「小数と整数のかけ算・わり算(小数と倍)」では、場面と図を関連付けて二つの数量の関係を理解し、立式の根拠を確かめさせる。

【中学校】「文字と式(等式と不等式)」では、等式や不等式で表す数量関係を解釈するとともに、等式や不等式の意味を読み取らせる。

数学的に表現したり、数学的に表現された事柄を読み取ったりする活動を学年の段階に応じて位置付け、学習状況を見届けましょう。

習熟問題①

<p>◆小学校第4学年</p> <p>1(1) $12 + 8 \times 3$ (2) $5.74 + 2.6$ (3) 1.9×16</p> <p>2 下の図で、黄のリボンの長さは、緑のリボンの長さの何倍でしょう。</p> <p>(基礎学力定着プロジェクト「補充問題」より)</p>	<p>◆小学校第5学年</p> <p>1(1) $0.4 + 3$ (2) $6 + 0.5 \times 2$ (3) $\frac{5}{7} - \frac{2}{3}$</p> <p>2 下の図で、青いテープの長さを求めましょう。</p> <p>(H26 全国A 2(2)※)</p>	<p>◆中学校第2学年</p> <p>1 a と b が整数のとき、計算の結果が整数にならないことがあるものを選びなさい。(H25 全国A 2(3)※)</p> <p>2 「1個 a 円の品物を2個買ったときの代金は1000円より安い。」という数量の関係を表した式を選びなさい。(H24 全国A 2(4)※)</p> <p>3 二元一次方程式 $2x + y = 6$ の解である x, y の値の組を選びなさい。(H25 全国A 3(2)※)</p> <p>4 $\begin{cases} 2x - 3y = 1 \\ 3x + 2y = 8 \end{cases}$ (H21 全国A 3(4)※)</p>
--	---	--

※「全国」は全国学力・学習状況調査、「県」は岐阜県における児童生徒の学習状況調査を表す(3ページも同様)。

★小学校については、総合教育センターHP「基礎学力定着プロジェクト」に掲載されている「学期末評価問題及び補充問題」を活用して復習しましょう (<http://www.gifu-net.ed.jp/ssd/sien/kiso/hyoukamondai/mondaiindex.html>)。

自校の調査結果をチェック②

学んだ算数・数学を活用して考えたり、判断したりする指導を行っていますか。

調査結果 問題及び平均正答率

- ◆小学校第4学年
 - 7(1) 示された情報をもとに、条件に合う時間を求めることができる。 県 83.6% 自校 %
 - 9(2) 最大値に着目して、棒グラフの棒を枠の中に表すことができない理由を言葉と数を用いて説明している。 県 35.3% 自校 %
- ◆小学校第5学年
 - 9(1) 問題場面の状況をつかみ、倍数に着目して問題を解決することができる。 県 47.8% 自校 %
 - 10(1) ひし形の面積の求め方を表した説明を、式に表すことができる。〈けんじさんの考え〉 県 49.5% 自校 %
〈まさこさんの考え〉 県 39.2% 自校 %
- ◆中学校第2学年
 - 7(2) 付加された条件の下で説明を振り返り、追究の過程で見いだした事柄や説明された事柄を用いることができる。 県 52.4% 自校 %
 - 8(1) 具体的な事象を表したグラフから速さを求めることができる。 県 29.8% 自校 %
 - 9(3) 2つの資料の傾向を比較するために、適切な代表値を根拠を明確にして説明することができる。 県 14.2% 自校 %

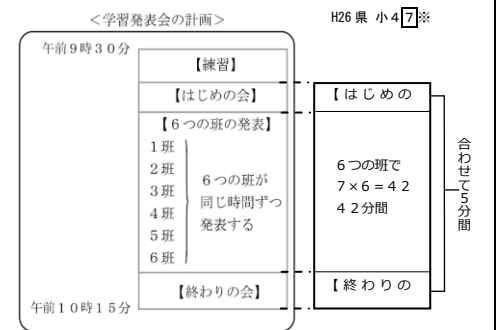
指導改善のポイント②

○ 言葉や数、式、図、表、グラフなどを適切に用いて、論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりする活動を位置付けましょう。

【小学校】第4学年回をもとに学習するときは、情報や条件を図に書き込んで、分かりやすく説明させる(右図)。

【中学校】第2学年回をもとに学習するときは、岐阜県の人口が多いかどうかを判断する際に代表値として何を活用するべきか根拠を示して判断させる。

論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりする活動を学年の段階に応じて位置付け、学習状況を見届けましょう。「3つの見届ける」参照(H27.1.14)



習熟問題②

<p>◆小学校第4学年</p> <p>昨年より食事の時間を5分間長く、片付けの時間を3分間長くすることにしました。今年は、準備の時間を何分間にすればよいですか。</p> <p>(H26 全国B 3(1)※)</p>	<p>◆小学校第5学年</p> <p>まさこさんの考え方の式①を書きましょう。</p> <p>ひし形ABCDの面積は、直角三角形AB1の面積の4つ分です。 式 ① × 4</p> <p>(H26 県1 0(1)※)</p>	<p>◆中学校第2学年</p> <p>(1) さとみさんは「午前7時48分に自宅を出て、午前8時4分に学校にきました。さとみさんの通学時間が含まれる階級を答えなさい。</p> <p>(2) 下線部に誤りがあるものが1つあります。正しく書きなおしなさい。</p> <p>〈2年1組の生徒の通学時間の傾向〉 ア 5分以上10分未満の階級から、4.0分以上4.5分未満の階級まで資料がらばっている。 イ 通学時間の中央値は、2.0分以上2.5分未満の階級に含まれる。 ウ 通学時間の最頻値は、9である。 エ 通学時間が3.0分未満である生徒は、8割以上いる。</p> <p>(H25 県1 0(1)※)</p>
---	---	--